

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）ブンキョウガクインダイガク	フリガナ）ケイエイガクブ	フリガナ）マワタリ
文京学院大学	経営学部	馬渡ゼミナール

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）カベハン	フリガナ）カタヤマ リョウスケ	6	無
かべはん	片山 涼介		

研究テーマ（発表タイトル）
幼児教育プロジェクト～子どもたちに明るい未来を～

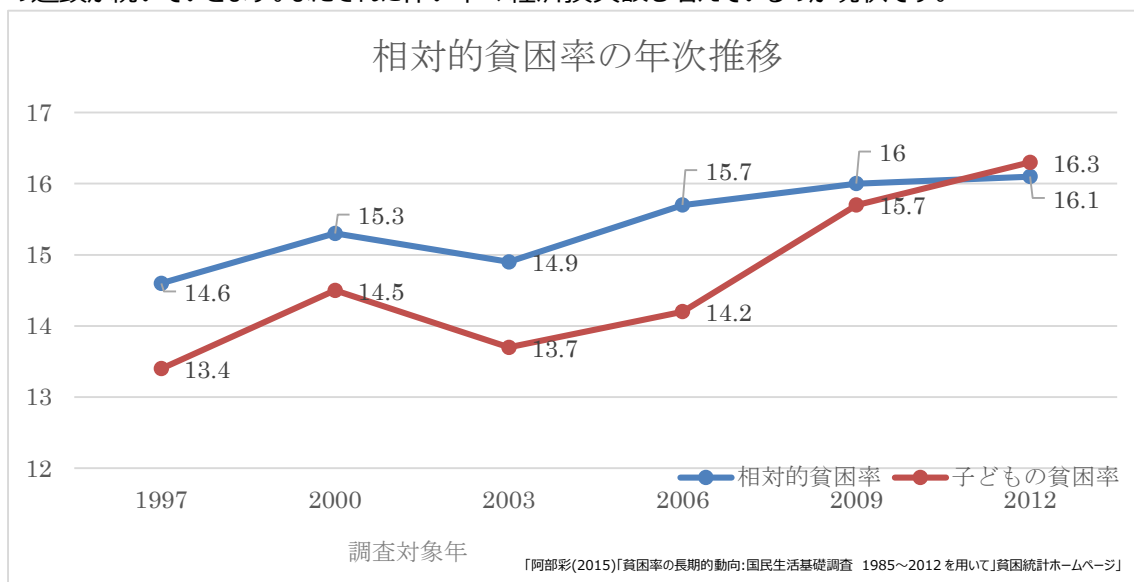
※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

ビジュアルシンキングストラテジーズという、美術作品を見て思ったことや感じた事を人に伝えて想像力やコミュニケーション能力を伸ばす教育手法を、大学生が主体となって日本の幼児教育に積極的に取り入れられるように動き、子供たちの将来の経済力につながる非認知スキルの向上の一助となることを目的とします。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

現在日本では子どもの貧困が年々増えつつあります。17歳以下の16.3%、6人に1人が貧困と言われています。これには親の貧困が関わっており、貧困の家庭で育つことで十分な教育が受けられず学習意欲の低下や自信の低下等につながるという、負の連鎖が続いていきます。またそれに伴い年々経済損失額も増えているのが現状です。



3. 研究テーマの課題

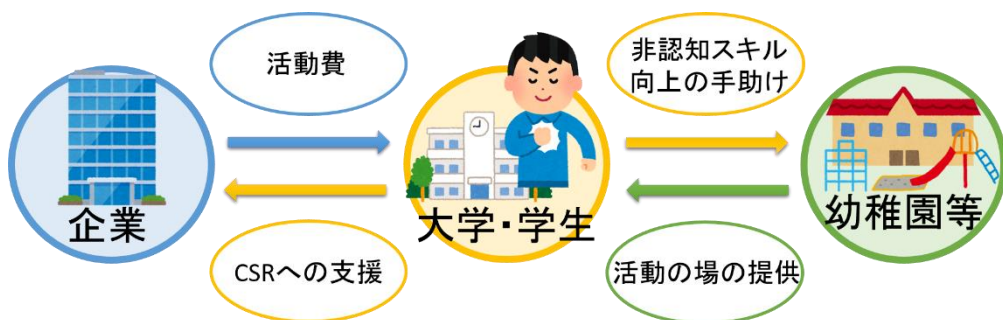
ビジュアルシンキングストラテジーズを行うにあたり、必ず専門知識を持つナビゲーターが必要となります。大学生にその専門知識を広め、ナビゲーターとして育成していくことができるかが、一つの課題です。また、日本ではビジュアルシンキングストラテジーズという手法自体がまだ十分には認知されておらず、実施している組織も少ないため、その認知をどう高めていくかも課題です。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

学生がビジュアルシンキングストラテジーズを行うことで、少しずつではあるが認知が広がるのではないかと考えます。問題である専門知識が必要であるナビゲーターの育成は非営利法人みりみるの会様のご協力のもと学生が教わることで問題は解決し、多くのナビゲーターを育成する事が可能となります。認知を広めるという点では多くの学生ナビゲーターが育成できると仮定した場合、多くの幼稚園、保育園、託児所等でビジュアルシンキングストラテジーズという教育手法を行うことができます。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

研究段階でビジュアルシンキングストラテジーズの認知度を調べたアンケートの結果、約 8 割の人が名前も聞いたことがなく内容も知らないという回答を取ることができました。モデルプランとしては、幼児教育に取り組んでいる企業様に活動費を頂き、学生である私達が幼稚園等でビジュアルシンキングストラテジーズを行い、幼稚園側からは活動の場を提供して頂き、企業様には新たな幼児教育の発展として企業イメージの向上等や CSR の支援をメリットとして生み出していきます。



6. 結果や今後の取り組み

今後の取り組みとしては幼児教育に取り組んでいる企業様に打診をしており、活動費を提供していただき、実際に実行し、私達学生が中心となりビジュアルシンキングストラテジーズという教育手法を幼稚園、保育園、託児所などで行っていき、活動の場の拡大を計っていくと思います。また、他大学にも協力を得て更なる認知の拡大、可能性を広めていくことを今後の展望としています。そして、短期的な取り組みだけでは実験をした意味が大幅に激減してしまうため、実験結果の効果測定をするためにもゼミ内での引き継ぎ等を徹底することによって長期的な目で見ても可能性を広げていきたいと思っています。

7. 参考文献

【書籍】

『描いて売り込め！超ビジュアルシンキング』ダン・ローム、講談社（2009）

『「学力」の経済学』中室牧子、ディスカヴァー・トゥエンティワン（2015）

『世界の幼児教育・保育改革と学力』泉千勢、一見真理子、汐見稔幸、明石書店（2008）

『どこからそう思う？学力をのばす美術鑑賞 ヴィジュアル・シンキング・ストラテジーズ』フィリップ・ヤノウィン、淡交社（2015）

『幼児教育の経済学』ジェームズ・J・ヘックマン、東洋経済新報社（2015）

『みる 考える 話す 聴く 鑑賞におけるコミュニケーション教育』編集・発行人 佐々木秀樹、日本文教出版（2013）

【雑誌】

『「教育」の経済学』週間東洋経済、（2015年10月24日号）

【Web サイト】

岡山県立美術館

<http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/kenbi/>（参照 2016/7/26）

京都造形芸術大学 アート・コミュニケーション研究センター NEWS

<http://www.acop.jp/news/q=188>（参照 2016/8/2）

京都造形芸術大学 通信学部 サイバーキャンパス

<http://kirara.cyber.kyoto-art.ac.jp/>

digital_kirara/graduation_works/detail.php?act=dtl&year=2008&cid=551&ctl_id=54&cate_id=34（参照 2016/8/2）

公共社団法人チャンス・フォー・チルドレン HP

<https://cfc.or.jp/problem/>（参照 2016/8/25）

厚生労働省、「非正規雇用」の現状と課題

<http://www.mhlw.go.jp>（参照 2016/6/16）

厚生労働省 保育をめぐる現状

<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000->

[SeisakutoukatsukanSanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/02siryou.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-02-SeisakutoukatsukanSanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/02siryou.pdf)（参照 2016/2/12）

総務省統計研修所 シングル・マザーの最近の状況 西文彦（2010 年）

<http://www.stat.go.jp>（参照 2016/9/20）

第一生命 NEWS 宅配便 首都圏在住の小中学生の親に聞いた「美術館・博物館の利用に関するアンケート調査」（2006 年 11 月）

<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/news/news0611.pdf>（参照 2016/7/22）

東洋経済オンライン 幼児教育が人生を変えるこれだけの証拠

<http://toyokeizai.net/articles/-/73546?page=2>（参照 2016/4/17）

独立行政法人経済産業研究所

<http://www.rieti.go.jp/jp/index.html>（参照 2016/5/11）

日経ビジネスオンライン「5歳までのしつけや環境が、人生を決める」（2014 年 11 月 17 日）

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/interview/20141114/273808/?rt=ocnt>（参照 2016/6/23）

日経 BP ネット 「所得格差」が「教育格差」を生む冷酷な現実

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20091013/188159/?rt=ocnt>（参照 2016/8/26）

日本財団ブログ「子共の貧困の経済的影響推計」（2015 年 12 月 4 日）

<http://www.nippon-foundation.or.jp/news/articles/2015/img/71/1.pd>（参照 2016/8/26）

貧困統計ホームページ「貧困率の長期的動向:国民生活基礎調査 1985~2012 を用いて」阿部彩(2015 年)

<http://www.hinkonstat.net/>（参照 2016/8/26）

文部科学省「教育指標の国際比較」（2013 年版）

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/kokusai/1332512.htm（参照 2016/5/13）

文部科学省 図表で見る教育（2015 年版）

<http://www.oecd.org/japan/Education-at-a-glance-2015-Japan-in-Japanese.pdf>（参照 2016/6/12）

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

特になし